

第45回佐賀県人権・同和教育研究大会

分科会 特集



総参加者数が300名を超える盛会となった第2分科会  
＝相知交流文化センター

第1分科会  
【人権啓発】  
玄海町民会館

太良町からの報告の様子



3本の報告が「公民館における人権・同和教育」「町をあげての高校生支援」「保護司の活動」という、それぞれ異なる取り組みの報告だったこともあり、参加者も各市町の人権啓発担当者に限らず、学校関係者や県内各市町の保護司の方など、例年になくさまざまな立場の方が参加した分科会となった。

掘り下げた議論とまではいかなかった面もあったが、逆に、「これまで知らなかった各市町や保護司の活動を知ることができ、今後の自分の市町における人権啓発をしていく上でのヒントをもらった」という参加者からの声もあり、活発な意見交換の場となった。

- 「人権」をもっと身近に もっと気楽に  
瀬戸 文隆 さん(唐津市教育委員会)
- 「私は 太良町が 大好きです。」  
野口 士郎 さん(太良町教育委員会)
- 生きる喜びをもう一度  
竹田 さゆり さん(みやき町 企画調整保護司)

# 思いや願いを実践に

## 唐津・玄海地区で分科会を開催

10月20日(火)に、唐津市・玄海町の5会場で「人権教育・啓発・まちづくりについての取り組みを学び、自分にできることを考え、実践につなげていこう!」を大会テーマに、第45回佐賀県人権・同和教育研究大会分科会を開催しました。県内各地から、社会教育・学校教育関係者をはじめ千名を超える参加者が5つの分科会に分かれ、レポート報告をもとに、日頃の実践を語り合いました。

# 佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 研究調査棟内  
TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

### 第2分科会 【環境づくり】 相知交流文化センター



今回の各分科会会場には、唐津・玄海地区の小中学生が描いた人権ポスターも展示された。

○一人ひとりを大切に、認め合う児童生徒の育成をめざして

江口剛さん 遠藤悟さん

(佐賀市立小中一貫校松梅校)

○自己有用感を育み、

集団を育てる環境デザインの取り組み

川崎直広さん(佐賀県立多久高等学校)

○出合いの中で学び、気付き、そして伝えたいこと

岩永 絹子さん(鹿島市立西部中学校)

小・中・高のそれぞれの校種からの報告があったこともあり、教員やPTAなど学校関係者を中心に、300名あまりの参加者があった。

特色ある3本の報告は、児童生徒の実態に即し、報告者の思いが行動につながった充実したもので、参加者からも「勉強になった」「子どもだけでなく、保護者を支えることも大切だと改めて気付かせてもらった」などの感想があった。

3本の報告に共通するキーワードである「場づくり」は、今後の子ども支援・家庭支援において、必要な視点になると考える。

### 第3分科会 【人間関係づくり】 唐津市文化体育館競技場



机・椅子の設営は、唐津市教委の協力もあり、短時間で済ませることができた。

○「わたしは、明日がとても楽しみです。」

音成 光子さん(佐賀市立高木瀬小学校)

○出逢えてよかった

山本 光子さん 北川潤一さん

(唐津市立馬渡小中学校)

○一人ひとりの存在を認め合い、支え合う学級をめざして

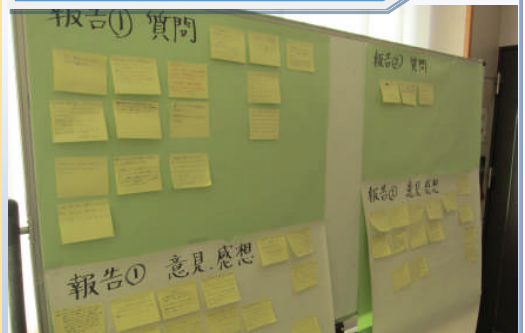
瀬戸 さゆりさん(佐賀県立武雄青陵中学校)

今分科会で、唯一の体育館フロアでの開催となったが、200名あまりの参加者があり、現在の学校における大きな課題である人間関係づくりへの関心の高さがうかがえる分科会となった。

3本の報告から、「子どもに寄り添うこと」「子どもの力を信じること」「子どもを認め、自己肯定感を高めること」とともに、実践していく教師の姿勢が大切だと改めて感じさせられた。

参加者からも「人間関係づくりのためにも、子どもたちが関わり合ったり、お互いを認め合うような機会と場をつくっていきたい」との感想もあり、今後の県内における実践に期待したい。

### 第4分科会 【学習活動づくり】 ひれふりランド(浜玉)



付箋を使った意見集約は参加者からも好評だった。他の分科会でも取り入れられ、参加者の声は報告者や他の参加者にも届く手立てとなった。

○もっといい学校にしたい

平野 桃子さん 石丸 真由美さん

(鳥栖市立田代中学校)

○人はいじめや差別をのりこえる力があることを知った日

上瀧 好太郎さん(武雄市立武雄中学校)

○人権教育の普遍化

堤 義典さん(佐賀市立小中一貫校北山校)

中学校2本、小学校1本の報告であったが、学習活動づくりへのヒントを得ようと、校種や職種に関係なく、150名を超える参加者があった。

学校として、どのように人権・同和教育に取り組んでいくのか、教師として子どもたちをどのように育てたいと思っているのか、を考え、学ぶ機会となった。

付箋を使って、それぞれの報告への質問や意見・感想を記してもらい、参加者の声を拾っていった。ホールで開催する分科会では、「この方法は意見が出しやすい」との参加者からの声を参考に、今後も分科会をつくっていきたい。

第5分科会

【人権のまちづくり】  
唐津市文化体育館文化ホール

3本の報告のあとには、報告者全員でのシンポジウムが開催された。



3本の報告のあとには、報告者全員でのシンポジウムが開催された。また、シンポジウムでは、NPOを立ち上げ、活動を維持していく上での難しさも語られた。今後も継続して活動を続けていくことが、人権のまちづくりにも欠かせないことであり、他機関や周りの人々とつながり合う場をつくっていくことを考えていきたい。

それぞれの地域や立場で、子ども支援・高齢者支援・子育て支援に取り組む3つのNPOの実践が報告された。それらの課題はすべてつながっており、人権のまちづくりを考える際に不可欠な視点であることが、今回の分科会を通して明らかになった。

○幸せな放課後の時間をめざして  
藤井 良重さん  
(佐賀県放課後児童クラブ連絡会)  
○高齢者が安心して暮らせる地域をめざして  
井手 薫さん  
(NPO米町地域づくり会)  
○学校が変わる??  
山口 ひろみさん  
(唐津市子育て支援情報センター)



2015年度

就学前教育研究大会

10月25日(日) 佐賀女子短期大学



分かりやすく「人権保育」の重要性を参加者に示していただいた特別講演であった。

10月25日の日曜日に、就学前教育研究大会を佐賀女子短期大学にて開催した。昨年度より午前中開催とし、参加しやすい大会にしている。今年度も保育士や幼稚園教諭、学校教職員を中心に100名を超える参加があった。唐津市若葉保育所の小林広子さんから、「太郎さん(仮名)の成長を見守りながら親・保育所・専門機関の連携を通して」の実践報告があり、関係機関と連携をもちながら、一人ひとりの子どもたちの人権を大切にしたい保育の取り組みが紹介された。また、特別講演では、NPO法人ちやいんどネット大阪理事の棚田純子さん(左写真)による「一人ひとりが大切にされる人権保育とは」乳児・幼児の集団(仲間)づくり」と題した講演があった。講演の中で、棚田さんが示された3つの大切なこと、①子ども・保護者・パートナーそれぞれを一人の人間として尊重する視点 ②お互いに思いを出し合う、聴き合う、共感するなど、相手を尊重し、認め合う力の育成 ③保育所・園で大事にすべき視点の共有化は、就学前教育のみならず、義務教育以降の学校や家庭・地域における教育でも大事な視点となるもので、参加者の心にも響いていたようだった。

## ◆社会教育 県外現地研修会報告

10月1・2日の2日間、「佐同教・社会教育部県外現地研修会」に参加した。

初日は、雨天のため、車で移動しながらたつの市構地区のフィールドワークを行った後、構教育集会所で人権交流会に参加した。

たくさんの話を伺ったが、一番印象に残ったのは、たつの市には、市のありとあらゆる団体が所属している「たつの市民民主化推進協議会」という、組織があること、その組織を中心に全市をあげて人権・同和教育に取り組まれていることであった。

協議会の会長さんから、同和問題や同和対策事業等に対する思い、この組織を結成させること



たつの市の取り組みを学ぶ参加者  
 〓 たつの市溝教育集会所

きの苦労話や発足以来の取り組みの基本理念・活動内容について詳しい話を聞いていくうちに、感嘆と嫉妬の思いがどんどん大きくなった。自分たちの生活さえ良くなればいいという狭い考えではなく、みんなが幸せにならなければいけないという大局的

な考えでこれまで活動されてきたからこそ、人権教育・啓発が大きな成果をあげているのだと確信した。

やはり、トップに立つ人の人権感覚・意識、差別解消に取り組む本気の姿勢、力量が最も重要なのだと強く思った。

その後、館長さんが、教育集会所の運営や活動についてスライドを交えて詳しく話された。中でも、「ムラの人たちは自尊感情を持ちにくい。ムラの人たちに誇りや自尊感情を持たせる取り組みが必要である。そのためには、ムラの人たちとそれ以外の人たちの心を一体化させることが大事で、そのための取り組みが必要である」という言葉が重く響き心に刺さった。

また、会長さんが『部落にとつての不利益は差別だ』という考えは共感を得る。しかし、『私個人にとつての不利益は差別だ』という考えは共感を得られない。運動体や行政のトップがまともな考えをしていたら、一般市民や地域の人たちの共感は必ず得られる。そうすればムラと地域は一体化できて、差別意識も薄れ差別もなくなっていく」と言われた。実際に活動して来られた方の説得力のあるこの言葉にも非常に重いものがあつた。

2日目は、まず、製革企業「エルヴェ化成」を訪ねた。工場に入った途端、正直「臭い」と思ってしまった。しかし、この匂いこそが「ここで働く人たちの労働の匂い・生活の匂いなのだ」と思い直した。そして、製品にするまでに要する膨大な時間と大変な苦勞を聞いた。「ここで働いておられる14人の方はすべて地区の人です。」と聞き、革製品の恩恵にあずかりな



製革の製造過程を見学し、話を聞いてその歴史を学ぶ参加者〓エルヴェ化成

がらも、これまで、この労働をされている人たちの冷たい目で見、差別してきた人たちがいたことに怒りを覚えた。

その後、総合隣保館に場所を移し、人権教育推進委員さんたちと交流をした。短い時間ではあつたが、ここでも、

推進委員さんたちの思いや活動の一部を聞くことができて大いに刺激になった。「隣保館まつりには毎年地域の人たちが2千人ほど参加される。垣根は随分なくなってきた。」「地区と学校の交流・連携が大事で、それを行っている。」「地区の人と地区外の人との結婚が増えてきている。それは、これまでの学習があつたから。」「差別する側が学習しなければならぬという考え方が広がってきた。」「隣保館活動のテーマは、『出会い、ふれあい、学び合い、そして交流』である。」といった話が心に残った。

今回の研修は、本当に有意義なものであつた。と同時に、学んだことを今後の啓発活動にどう活かしていくかを考えていかなければならぬと思つた。(唐津市教育委員会 寺田 健二)